

4章 北京大学の国際連携教育プログラム

1. 概要

北京大学は1898年に政府によって創立され、111年の歴史を有している総合大学である。現在、人文学部、社会科学部、理学部、情報工学部、医学部の5つの学部と、41の学院、104の学士課程プログラム、256の修士課程プログラム、228の博士課程プログラムがある。北京大学は伝統的基礎科学をリードすると同時に、近年、応用科学の領域及び学際的領域においても、重大な発展を遂げてきた。教育と研究の両面で、近年顕著な成果を収めており、イギリスのタイムズ誌増刊の世界大学のランキング評価において、高い地位を占めるようになった。

2007年10月の統計では、北京大学の学生数は学部生が14,125人、修士学生が11,224人、博士学生が5,442人となっている。また80ヶ国から4000人の長期と短期の外国人学生が来ており、そのうち1,757人は学位を取得する目的で留学している。この約35,000人の学生に対して、5,513人の専任教員がいる（うち、教授1,488人、准教授1,889人、中国科学院士52人、工程院院士7人）。外国からも毎年300人を超える専門家や学者が来訪し、講演や学術交流などを行っている。

北京大学は12の国家重点実験室、46の省と官庁の重点実験室、2つの国家工程研究センター及び8の付属病院を有している。またアジアの大学でも最も規模大きい図書館であり、600万冊の蔵書、22.4万冊の電子図書、6,500種類の中文と外国の雑誌新聞を備えている。

北京大学は外国の大学や研究機構、国際企業との交流と協力を重要視しており、APRU (Association of Pacific Rim Universities 環太平洋大学協会)、IARU (International Alliance of Research Universities 研究大学の国際連合) などの世界的な大学連盟組織に積極的に参加している。現在50カ国の220の大学と大学間の交流協定を結び、学生の連携養成、学者の交換などにおいて、顕著な実績と進展を遂げており、国際化は北京大学の一流大学建設の重点戦略となっている。

以下では、北京大学で実施されている大学間の主要な国際連携教育プログラム及び重要な国際交流活動を整理し、その内容と特徴を考察してみる。

北京大学には、国際合作部が設置されており、その部長は学長補佐も担当し、学長の直接管理下に置かれている。外国の大学との研究・教育交流、教員と学生の外国への派遣及

び外国人の留学生、学者の受け入れを所管しているが、下記に紹介する連携教育プログラムのすべては国際合作部の所轄となっている。

2. 学生の海外学習プログラム (Education Abroad Program)

EAP プログラムは、ダブル教育環境の中で、学生が国際的視野を形成するために、短期海外学習の機会を提供するものである。学生の交換が主な形式であり、学習の基礎段階から海外での学習を経験することによって、国際化人材の養成メカニズムを形成する。学部学生の交流プログラムは主に表1にあげた大学で1学年または1学期在学するプログラムである。

表1 学部生の海外交流プログラム（短期訪問を含まない）30校

国家・地区	交流対象大学	期間
日本	東京大学	1 学年
シンガポール	シンガポール国立大学	1 学期
オーストラリア	ブリスベン大学	1 学期
スウェーデン	Uppsala University	1 学期
香港	香港大学	1 学期
香港	香港科学技術大学	1 学期
カナダ	ヨーク大学	1 学期
日本	早稲田大学	1 学年
ドイツ	Bayreuth University	1 学年
アメリカ	メロン学院	1 学期
デンマーク	社会科学学院	1 学期
台湾	新竹清華大学	1 学期
ドイツ	ベルリン自由大学	1 学年
スウェーデン	ローヤル工学院	1 学期
スウェーデン	Lund University	1 学年
スイス	ラウサンネ大学	1 学年
フランス	パリ政治学院	1 学期

イギリス	ケンブリッジ大学	1 学年
オランダ	Leiden 大学	1 学年
オーストリア	ウイーン経済管理学院	1 学年
ペルー	ペルーカトリック大学	1 学期
オーストラリア	シドニー大学	1 学期
オーストラリア	ニューソースウェールズ大 学	1 学期
オーストラリア	オーストリア国立大学	1 学期
チリ	チリカトリック大学	1 学期
オランダ	アムステルダム大学	1 学期
フランス	パリ高等師範学院	10 ヶ月
デンマーク	コペンハーゲン	10 ヶ月
ドイツ	ミューヘン大学	1 学年

資料出所：北京大学国際合作重点プロジェクト概覧

北京大学は学術研究の重鎮であり、一流の総合研究大学建設は中国の高等教育における重要な政策課題となっている。2007年に「高水準大学を建設するための公費による大学院生の海外派遣プロジェクト」が政府によって打ち出され、国際視野を持つ創造的人材の養成、大学の学科建設のために、北京大学は2007年から2011年まで、毎年300名の大学院生を海外の一流大学に派遣し、連携養成を行う計画を設定した。専門分野はエネルギー、資源、環境、農業、製造業、情報、生命、宇宙空間、海洋、ナノ技術および新材料などの領域、及び人文応用社会科学などである。下記の表2で示したのは北京大学が大学院レベルの交流プログラムをもつ21の海外の大学リストである。

表2 大学院生の海外交流プログラム（短期訪問を含まない）21校

国家・地区	交流対象大学	期間
イギリス	エジンバラ大学	1 学年
ドイツ	The University of Freiburg	1 学年

フィンランド	ヘルシンキ大学	1 学年
オランダ	Leiden University	1 学年
スイス	Lausanne 科学技術大学	1 学年
ロシア	モスコワ国立大学	1 学年
スイス	ジュネーブ大学	1 学年
スウェーデン	ストックホルム大学	1 学年
ドイツ	Tubingen University	1 学年
スウェーデン	Uppsala University	1 学期
ドイツ	University Bayreuth	1 学年
ドイツ	ベルリン自由大学	1 学年
スウェーデン	ロイヤル工科大学	1 学期
スウェーデン	Lund University	1 学年
スイス	University of Lausanne	1 学年
オーストリア	ウィーン経済管理学院	1 学年
オランダ	アムステルダム大学	10 ヶ月
フランス	パリ 高等師範学院	10 ヶ月
デンマーク	コペンハーゲン大学	10 ヶ月
ドイツ	ミュンヘン大学	1 学年
アメリカ	エール大学	1 学期

資料出所：北京大学国際合作重点プロジェクト概覧

3. 連携教育プログラムの事例

北京大学の国際協力と交流は多方面で展開され、国際連携教育も学生の海外への派遣と海外の学生の受け入れを中心に、学位取得プログラムから、中国語研修、大学の分校の設置、サマースクール運営、学生国際会議、学術フォーラムの開催、国際文化祭の主催など盛んに行われている。学生に国際視野の養成と海外で学習する機会を提供するために、海外の大学と 50 以上の連携教育交流プログラムを結び、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、豪州の知名な 200 以上の大学に学部生と大学院生を短期留学させている。以下では、その主なものを紹介する。

①北京大とハーバード学生交流キャンプ

北京大学とハーバード学生交流キャンプは、北京大学の「学生国際交流協会」とハーバード学院アジアプロジェクトの共同運営プログラムである。ハーバード及び全米の学生のアジア認識及び、中国の学生のアメリカ認識を促進する目的で企画され、アメリカと中国における学生会議の開催などの交流活動によって、両国の学生の交流プラットフォームを構築することが狙いである。

②北京大とミシガン大学学院

北京大学がミシガン大学との共同で北京大学に設置した学院である。世界の著名な大学として、知識の創造と伝達を使命とし、両大学の学部生、大学院生、教職員に学術プロジェクトとコースを公開する。サマースクールを修了した時には、学生が学院から修了証書をもらう。現在では、社会調査、定量社会科学、社会理論及び中国学の研究コースを設けている。

③北京大—エール大学の学部生連携養成プログラム

両大学の長期的頻繁な交流を踏まえ、中国と米国の大学協力の試みとして、大学当局の支持と重視のもとで、2006年9月にスタートしたプログラムである。学生が共同居住する生活環境を通して、相互理解と相互学習の機会を得て、多文化理解と交流、国際視野の養成を促進する。プログラムは毎年春学期と秋学期の両方で行い、3年間（2006-2009）試行運営する。具体的には毎年それぞれの大学の2年生から4年生の学生の中から20人を選抜し、北京大学の42楼で共同生活し、両大学の優秀な教員が特定のコースを開講する。北京大学とエール大学はそれぞれ5つの指定コースを設けており、両大学の学生が連携教育プログラムの指定科目の幾つかを一緒に受講する。学生はまた連携プログラムが企画した特別活動やシリーズ講座にも参加している。

④北京大—エール大学の大学院生連携養成プログラム

グローバルな国際協力教育の多元化に対応するため、北京大とエール大が大学院レベルの交流プロジェクトを2005年からスタートし、3年間試行運営する。まずお互いの強みを協力する学術分野とする。たとえば、中国史、アメリカ・ヨーロッパ史が、お互いに補強

する分野となる。派遣する大学院生は語学能力を備えていなければならない、期間は1学期とするが、優秀な学生は1学年まで延長できる。毎年1-3名の大学院生を相互に派遣し、お互いの学生に学費免除と住居の提供、また1学期に4,000ドルの生活費を支給することとなる。

⑤北京大—早稲田大学の学部生・大学院生連携養成プログラム

2004年にスタートしたプログラムであり、毎年3年生の学部生を1年間お互いの大学に留学させ、卒業時は両方の大学の学位を取得することができる。このプログラムは最初北京大学国際関係学院と早稲田大学の国際教養部の間で行われたが、近年、他の学院にも及び、2009年9月から早稲田大学経済学系も北京大学の学生を受け入れるようになり、学生が北京大と早稲田の両方でダブル学位を取得していく。

⑥北京大—モスクワ大学連合大学院プログラム

中国とロシアの戦略的パートナーシップ及び両大学の長い友好関係に基づき、また教育部の支持を受け、2003年に北京大学—モスクワ大学連合大学院プロジェクトが発足した。北京大学とモスクワ大学の双方が毎年20名の大学院生を交換し、相手校の学生に学費、住居費を支払い、経済的援助を提供する。2006年までに、北京大学はモスクワ大学に20名の博士課程の学生を送り、モスクワから20名の学生を受け入れている。

⑦北京大—ケンブリッジ大学の「現代中国研究」修士(MPhil)プログラム

2001年に両大学は「現代中国研究」の修士連合養成プログラムの創設に関する協議書を正式に調印した。ケンブリッジ大学の学生が母校で1学期の学習を終えた後、北京大学で1年間学習し、ケンブリッジ大学に戻って論文を完成し、修士学位を取得する。今まで45人のケンブリッジの修士学生がこの「現代中国研究」プログラムに参加した。

プログラムは9ヶ月間で、4月の初めから12月の中旬までの春季と秋の2学期とし、期間は24週間とする。

学習内容は現代中国語、新聞購読、英中文章翻訳、ヒアリングといった中国語関連科目と、経済学、中国政治、中国法律、中国商業管理などの専門課程とする。専門コースは北京大学の教授が英語で教えることとする。授業以外に、卒業論文のテーマ策定と資料収集、修士論文初稿の執筆がある。北京大学国際合作部は指導教授の委託、助教または関係学院

の博士課程の学生をチューターとして派遣し、ケンブリッジ大の学生の論文の作成のために、良好な環境条件を作り上げている。

観光と社会実践もプログラムに含まれている。北京市内及び周辺名勝古跡の観光、天安門、故宮、天壇、万里の長城、瑠璃場、瀋家園などの見学、京劇、雑技、武術の鑑賞及び中国の書道、切り紙の研修、中国人家庭の訪問、文化講座への参加、承德など社会実践を通して、中国の発展と変化を理解し、論文のテーマ設定のヒントを作る。

⑧北京大—南洋理工大学「中国学」連携プログラム

北京大学とシンガポール南洋理工大学の長期にわたる協力関係から生まれた「中国学」プロジェクトは両大学学長の積極的な推進の下で、2005年にスタートした。「中国学」は南洋理工大学の「グローバル教育計画」の重要な部分となっており、鉄の三角の戦略枠組み（北京大学、南洋理工大学、エール大学）の重要なステップとなっている。3つの大学の学生が多国間、多角の視点で異なる空間と地域で共同学習と協力を行う。

学習時間は1学期で、春の2月下旬から6月下旬まで、または秋の8月中旬から12月中旬までとする。

カリキュラムは中国語、中国文化と古典文学概論、文化交流と現代中国文学及び近代中国概論及び歴史、政治、経済の3つの専門コースを提供している。

現在、このプログラムはシンガポールの南洋理工大学に開放しているが、他の応募者は南洋理工大学のグローバル教育計画弁公室のウェブサイトアクセスして、申請資格と申請方法を閲覧し申請できる。

「中国学」コースでは観光と社会実践もプログラムに含まれている。北京市内及び周辺名勝古跡の観光、天安門、故宮、天壇、万里の長城、瑠璃場、瀋家園などの見学、京劇、雑技、武術の鑑賞、また毎週一定の時間を使って北京駐在の外資企業（中関村科学技術園のIT企業や経済開発区のコカコーラ社など）でインターンを行うことが計画に入っている。

⑨スタンフォード大学—北京大学分校プロジェクト

本プロジェクトは北京大とスタンフォード大学の長期な協力関係に基づいて、2004年9月からスタートし、200人のスタンフォードと北京大学の学生の参加があった。

学習期間はスタンフォードのQuarter制をとり、春の4月から6月まで、または秋の9

月から12月までとし、1 Quarter は12週間とする。

学習内容は中国語課程と専門課程があり、中国語は小人数クラスで、北京大学対外中国語教育学院の先生が教授する。専門の授業は北京大学とスタンフォード大学の著名な教授によって、英語で行われる。毎学期4-5のコースがあり、内容は歴史と現代中国にフォーカスしており、歴史、哲学政治、経済、法律、社会、環境及び科学技術史などである。ここで取得した単位は両方の大学で、認定されている。

本プロジェクトは観光と社会実践も含まれている。北京市内及び周辺名勝古跡の観光、天安門、故宮、天壇、万里の長城、瑠璃場、瀋家園などの見学、京劇、雑技、武術の鑑賞及び太極拳、中国の書道、中国の絵、中国料理などの文化体験コースも用意されている。さらに休暇を利用して、上海、杭州、雲南、新疆などで実地調査を行い、中国の風土・人情及び社会の変遷を理解する。

⑩スタンフォード中米学生会議プロジェクト (FACES)

Forum for American/Chinese Exchange at Stanford (FACES) は2001年秋に創立された学生組織である。本部はスタンフォードにあり、フォーラムを企画・開催することによって、中国とアメリカ両国の未来のリーダーの友誼と理解を深めることを狙いとする。第1回目のFACESスタンフォード会議は2003年にスタンフォードで行われ、30人のエリート学生の参加があった。2005年にはFACES北京分会が北京に設立され、両大学の学生間の往来を強化することを推進している。

上記以外に、北京大—スタンフォード大学の夏季高級中国語研修プログラム、北京大—コロンビア大学の夏季中国語研修プログラム、北京大—McGill大学の夏季中国語研修プログラム、北京大—オックスフォード大学の高級中国語研修プログラム、北京大—アメリカ国際教育交流協会の中国語研修プログラム、北京大と英国外交部の専門中国語訓練プログラム、中国—オーストリアのサマースクール、さらに、学部生、修士、予科留学生、研究学者、普通研修生、高級研修生のプログラムを世界各国の若者に開放している。

4. 北京大の外国人留学生の学習環境

中国の大学は基本的に全寮制をとっており、学生がキャンパスの中に居住している。留学生寮も一般的にキャンパスの中か、キャンパスの周辺に建築されている。中国の経済成

長が持続する中で、留学生の規模が大きく拡大し、学歴を取得する目的で留学してきている留学生と、短期留学生の両方の数を合わせると、2002年では1.6万人であったものが、2007年では19万人となっている（データ出所『2007年来華留学生簡明統計分析』、教育部国際合作司編）。

中国経済の市場化の進展に伴って、高等教育にも市場メカニズムが浸透し、国内国外の学生受け入れは大学経営の1つの重要な側面となると同時に、重要な収入源となっている。国際学術研究・教育を推進することは、効果的な大学経営につながり、「北京大学の学部留学生応募情報」から以下のことが読み取れる。

- 学習期限：4-6年、
- 学位：カリキュラムの教育内容を完成し、卒論の執筆と答弁に合格した者が卒業証書を取得する。また学士学位の規定に符合する者は学位証書を取得できる。
- 申請資格：18-30歳、身体健康、全日制高校卒業学歴を有する者、中国籍以外の国籍の所持者
- 試験：筆記試験と面接の両方を行う。
- 受験科目：国語、数学、英語（物理、化学、生物学関連の受験者は他の関連科目を受ける）
- 選考費用：800元
- 学費基準：理系は30,000元、文系は26,000元
- 宿舍費：20000元

ちなみに大学院生の学費はこれより高額となる。

修士の場合：理系33,000元、文系29,000元

博士の場合：理系40,000元、文系32,000元

普通研修生、高級研修生の学費は学位取得プログラムとほぼ同じ学費レベルにある。

留学生の学費、宿泊費は通常の中国人学生（4,500元）より高く、その5-10倍のレベルにある。この収入は国際教育交流の財的基盤となると同時に、大学の経営の増収にも繋がる。

5. 国際連携教育の展望と課題

現在、北京大学が受け入れた留学生の90%以上は社会科学領域の学生である。また韓国、日本、アメリカ等からの学生が大きな割合を占めている。今後理工学の学生数の拡大、英

語による授業科目の増大が重要視されると同時に、環境、気候、資源などの先端領域の開拓、国際的な人材育成、素質の高いリーダーシップ人材の養成が課題となる。

北京大学の国際連携教育は主に2カ国間で行われ、多国間のプログラムはあまり行われていない。その原因について、学長補佐の国際合作部部長の話によると、多国間プログラムの調整には高いコストがかかるだけでなく、時間もかかるので、多言語の障壁、また学制、学期の長短と時期、学習時間と学習の単位との関係、単位認可などの一連の問題をクリアする必要がある。

しかし、このような課題の中でも、北京大、早稲田大、米国の大学、韓国の大学といった多国間のプログラムの試みが2007年からスタートした。各国の差異とその強み、伝統と特色のシェアリングはひとつの国際交流の重要な形態となっていくであろう。

北京大学は中国のトップの大学として、その国際競争力の強化のために、政府が一連の財政的傾斜政策を取っている。「985計画」(98年5月に、北京大学の100年式典において、江沢民前主席によって提唱された世界一流大学建設計画)の実施によって、1999年から北京大学と清華大学に毎年6億元の特別費用が注入され、施設設備と教員待遇の向上、教育研究環境の整備などに特別支援がなされている。その建設の第1期工程(1999-2003)、第2期工程(2004-2008年)の基盤整備によって、大学の教育研究レベルは飛躍的な発展を遂げ、イギリスのタイムズ誌増刊の世界大学のランキング評価においても、15位(2006年)という高い評価を受けるようになった。この評価の指標となるのは、留学生の比率と外国籍の教員の比率などである。2008年以降の世界的な金融危機の中でも、中国の経済は持続的な成長が予測される中で、一流大学建設は依然として、急ピッチで進められている。一流の学科建設、一流の人材の確保と養成、一流の教育研究環境の整備の課題は、大学に国際交流の好機をもたらしている。しかし、中国経済成長の過程で、貧富の格差の拡大、文化道徳の退廃が見られたように、中国の大学もいろいろな問題を抱えている。2009年3月20日に教育部が高等教育機関の学術腐敗を嚴重に処理する通知を打ち出して、高等教育機関が学術腐敗を調査処理する直接的な責任をもつことが強調された。グローバル教育研究の競争が激化する中、教育研究の質保障が重要な課題となっている。これからの国際連携教育交流において質的保証と質の向上を推進させることが、その成功のキーポイントとなると思われる。

謝辞：本文の執筆に当たって、北京大学国際合作部の李岩松部長がお忙しい中で、インタビューに応じてくださったことに深く感謝いたします。また李部長からいただいた貴重な資料に基づいて執筆したものであった。